

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	15-062	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Joint and independent effect of alcohol and tobacco use on the risk of subsequent cancer incidence among cancer survivors: A cohort study using cancer registries. がん生存者における持続性がん発症リスクとアルコールとタバコ使用の複合影響と独立影響：がん登録コホート</p>		
執筆者		
Tabuchi T, Ozaki K, Ioka A, Miyashiro I.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2015 Nov 1;137(9):2114-23. doi: 10.1002/ijc.29575. Epub 2015 May 5.		
キーワード		PMID
飲酒、喫煙、がん生存者、持続性原発性癌、日本		25904109
要 旨		
<p>目的： がんの修正可能な危険因子である飲酒と喫煙が、がん生存者において、持続性の原発癌に関連しているかは明らかではない。</p> <p>方法： 病院ベースと集団ベースのがん登録を使用して 1985 年から 2007 年の間に診断されたがん生存者 27,762 人を 2008 年まで追跡し、持続性の原発癌(SPC)を調査した。最初のがん診断および持続性の原発癌の発症と、飲酒と喫煙のそれぞれ単独、および飲酒と喫煙の複合影響との関連についてポワソン回帰を用いて検討した。持続性の原発癌は、最初のがん診断後、3 か月から 10 年間の癌診断とした。</p> <p>結果： 非飲酒・非喫煙者に対して、各飲酒と喫煙の複合指標は、過去飲酒・過去喫煙者 43-108%、現在飲酒・現在喫煙者 52-136%、大量飲酒・過剰喫煙者 217-402 過去飲酒・過去喫煙者は、非飲酒・非喫煙者に比して、食道と肺の SPC の率比が高かった。がん生存者において、過去もしくは現在飲酒者は喫煙が加わったときのみ持続性原発癌と関連していたが、過去喫煙、現在喫煙は飲酒状況とは関係なく持続性原発癌と関連していた。大量飲酒・過剰喫煙は、持続性原発癌の独立した相加的な危険因子であった。</p> <p>結論： 持続性原発癌発症の減少には、節酒もしくは禁酒および禁煙が必要である。</p>		